伴奏者（1992）

L’ ACCOMPAGNATRICE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 Color
時間 112分
初公開日 1993/06/26
公開情報 テレビ東京＝ヘラルド・エース提供／ヘラルド・エース＝ヘラルド

【解説】

８０歳以降本格的に文筆活動を始めたというＮ・ベルベーロワの原作を元に、女を描き続けたトリュフォーの、名実共に継承者であるＣ・ミレールが織りあげた妙なる愛の映画だ。彼自ら“視線の映画”と呼ぶ、巧みに計算された眼差しの交わり或いはすれ違いを、完璧に視覚化し映画的昂揚を生み出している。世界的なプリマ、イレーヌの専属ピアニストになった少女ソフィは、美しく奔放な彼女にあこがれる一方、憎んでもいた。常にスポットライトを浴びるのは当然、と傲慢な所もある女だったが、事業家の夫は溢れるばかりの愛をイレーヌに注いでいた。やがてナチの台頭凄まじく、対独協力者に見えた彼はカバン一つで、妻とソフィを連れロンドンに渡る。しかし、そこでイレーヌを待ち受けたのは、若く魅力的な愛人ジャックだった。彼に密かに恋するソフィ。彼の存在を知りながら、どうすることも出来ない夫の懊悩。そして、少女とは腐れ縁のレジスタンスの少年の存在。それらが綾なすむせ返るような感情と、それを抑える慎みのタペストリーは、素晴らしい劇中曲で見事に繋がる。ソフィ役のロマーヌの「野性の夜に」とはうって変わった女優ぶりに驚き、父のリシャールの円熟の演技に舌を捲く。イレーヌのＥ・ソフォノヴァも美しい。少女の感情の成長を描いて、ここまで心のひだに届く映画は少ない。

【クレジット】

監督	クロード・ミレール	Claude Miller
製作	ジャン＝ルイ・リヴィ	Jean-Louis Livi
原作	ニーナ・ベルベーロワ	
脚本	クロード・ミレール	Claude Miller
	リュック・ベロー	Luc Beraud
撮影	イヴ・アレグロ	
音楽	アラン・ジョミイ	Alain Jomy
出演	ロマーヌ・ボーランジェ	Romane Bohringer
	リシャール・ボーランジェ	Richard Bohringer
	エレナ・サフォノヴァ	Elena Safonova
	サミュエル・ラバルト	Samuel Labarthe
	ベルナール・ヴェルレー	Bernard Verley

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.